

# 多文化共生社会に向けて ～平塚市の取組～

平塚市市民部文化・交流課 柴崎 恵子 (かながわ湘南RC)

## 本日の内容

- 平塚市における外国籍市民の状況
- 平塚市における外国籍市民の推移
- 外国籍市民相談窓口（一元的相談窓口）
- 出入国管理・在留資格相談の開催
- 通訳・翻訳ボランティアバンク（通称：スウィング）
- 日本語教室開催に向けた支援
- 多文化共生マネージャーの配置
- 平塚市は多文化共生アドバイザー
- やさしい日本語の普及
- 自分のまちの取組を知るには

## 平塚市における外国籍市民の状況①



- 人口：258,463 人  
(2023年10月1日現在推計人口)
- 外国籍市民数：5,802 人  
(2023年9月末現在)
- 人口に占める割合：約2.1%

## 平塚市における外国籍市民の状況②



### ●国籍別上位6か国

1位：中国

2位：フィリピン

3位：ベトナム

4位：ブラジル

5位：韓国

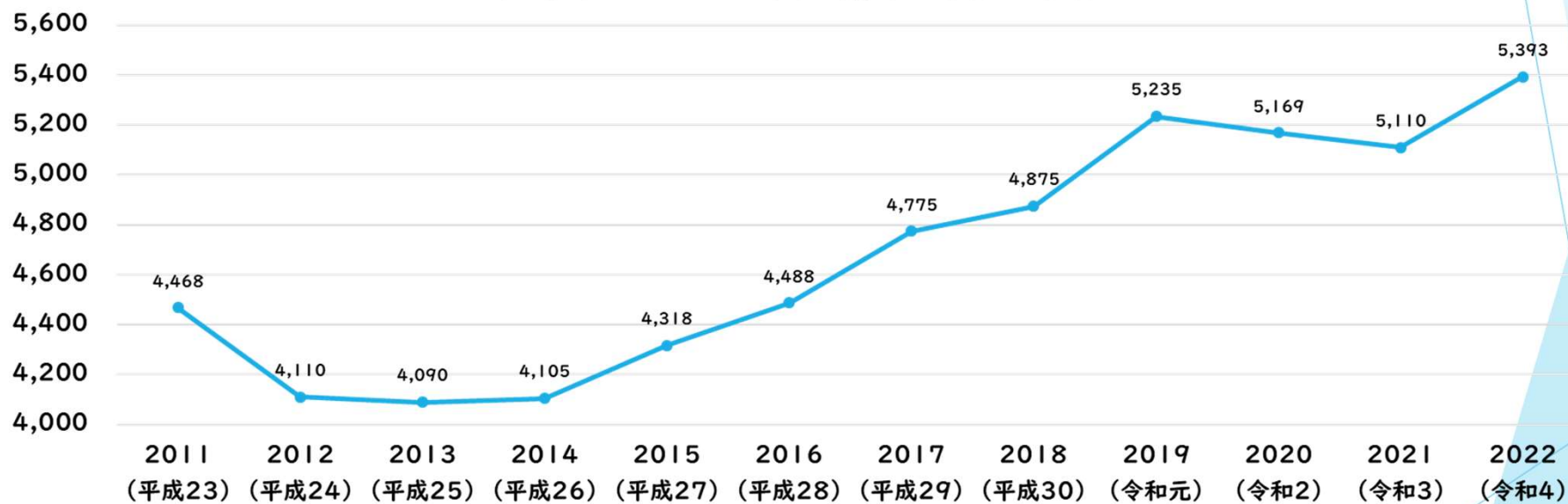
6位：カンボジア

### ●県内での状況

県内で8番目に多い自治体

# 平塚市における外国籍市民の推移

## 平塚市における外国籍市民数の推移



東日本  
大震災

新型コロナウイルス  
感染症

# 外国籍市民相談窓口（一元的相談窓口）①

## ●概要

- ・言葉や文化が異なる外国籍市民が安心して暮らしていけるよう、母語で相談できる窓口を市役所内に設置。
- ・外国籍市民へ手続き先や相談場所を案内するとともに、必要に応じて窓口にも同行。

## 外国籍市民相談窓口（一元的相談窓口）②

### ●運営体制（その1）

- ・外国籍市民案内人の配置

相談窓口の専用案内人として、職員（パートタイム会計年度任用職員）を採用

- ・ポルトガル語通訳者（月2回）とスペイン語通訳者（月4回）の配置

## 外国籍市民相談窓口（一元的相談窓口）③

### ●運営体制（その2）

- ・テレビ通訳システム（タブレット6台）の導入  
外国籍市民の増加により、多くの言語での対応が求められたことから導入。これにより、通訳オペレーターを介して外国籍市民は母語で安心して正確な情報を得ることが可能となった。  
現在、16言語で対応。



## 外国籍市民相談窓口（一元的相談窓口）④

### ●運営体制（その3）

- ・転入バッグ（アドバッグ）の配布

外国籍の転入者へ、多言語またはやさしい日本語で作成されたチラシ等に入った転入バッグを配布。

- ・出入国管理・在留資格相談の開設

# 出入国管理・在留資格相談の開催

## ●概要

在留資格の手続き等について、入国管理局職員が相談に乗る窓口。(2020年に県内自治体で初めて開設。) 市民は遠方まで出向くことなく、相談が可能。

※月1回開催(2023年度は毎月第4火曜日)

※相談員:東京出入国管理局横浜支局職員

※主な相談内容:在留カードの更新方法、離婚後の在留資格、今の在留資格でできる仕事等

# 通訳・翻訳ボランティアバンク（通称：スウィング）①

## ●設置の目的

外国籍市民にも暮らしやすい多文化共生のまちづくりに寄与するため、通訳・翻訳の公的サービスを提供するとともに、外国籍市民と地域住民との交流を進めるために設置。（登録制）

※登録者：65名（2023年4月1日現在）

※対応言語：9言語（中国、韓国、スペイン、ポルトガル、カンボジア、ベトナム、タガログ、英語、ロシア）

## 通訳・翻訳ボランティアバンク（通称：スウィング）②

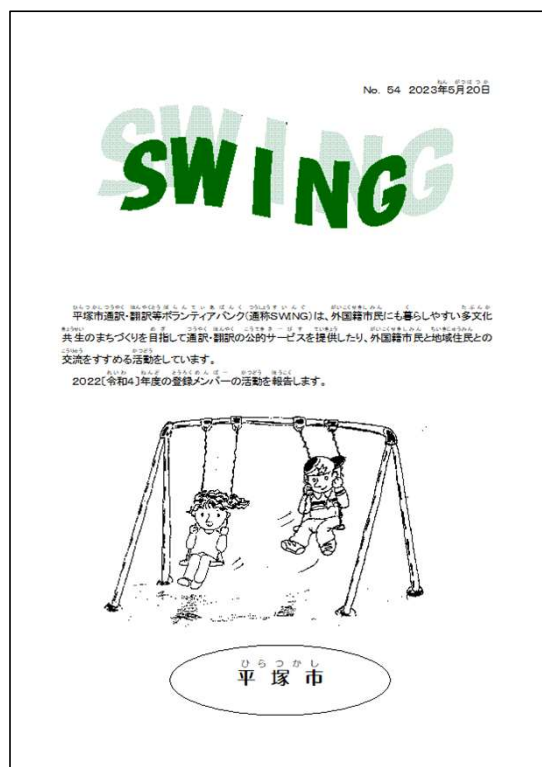
### ●主な活動内容（その1）

- ・外国人や行政窓口、公的期間などへ通訳・翻訳の公的サービスの提供
- ・公民館や学校での外国文化等の紹介や地域交流
- ・研修会の開催（年3回）

外国籍市民に関連のある市の業務内容（税金・保険・災害時対応等）や生活していく上で知っておいてもらいたいこと等について学ぶ。

# 通訳・翻訳ボランティアバンク（通称：スウィング）③

## ●主な活動内容（その2）



## ・会報誌「SWING」の発行（年1回）

<https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/common/200135525.pdf>

# 日本語教室開催に向けた支援①

## ● 支援の重要性

- ・日本語教室は、外国籍市民が日本で生活する上で必要な日本語を学ぶ重要な場
- ・外国籍市民が増加していることも踏まえると、今後自治体の取り組みが一層求められる

## ● 市内の日本語教室

平塚市内には複数の日本語教室があり、どの教室も受講料は無料。（一部教室では資料代 等がかかる場合があります。）

## 日本語教室開催に向けた支援②

### ●支援の内容

- ・平塚市国際交流協会日本語教室  
教室の運営委託、ボランティア研修の実施、会場の提供、オンラインでの教室開催の支援。
- ・市内日本語教室  
教室の開催日程表の作成・配布、日本語教育に関する情報の提供及び交換。

## 日本語教室開催に向けた支援③

### ●日本語ボランティア養成講座の開催

今後受講する生徒の増加を見据え、新たな日本語ボランティアの発掘・定着を目指していく。



## 多文化共生マネージャーの配置①

- 多文化共生マネージャー（通称：タブマネ）とは地域の多文化共生推進の担い手として、日本人も外国人も共に暮らしやすいまちづくりを目指し、施策の立案や実践、関係者間のコーディネート等を行う人材のこと。
- マネージャーに認定されるには一般財団法人自治体国際化協会（通称：クリア）が実施する活動に必要な専門的知識を身に着けるための研修や課題研究を終了すると、「タブマネ」として認定される。

## 多文化共生マネージャーの配置②

### ●平塚市の状況

タブマネ：1名（文化・交流課に在籍）

※県内の公開登録者は8名（登録自体は24名）

※県内の公開登録者では唯一の基礎自治体職員

※全国では678名（2023.3.31現在）

## 平塚市は多文化共生アドバイザー①

- 多文化共生アドバイザーとは  
多文化共生の取組に関する先進的な知見やノウハウを有する地方公共団体の担当部署又は職員を、多文化共生アドバイザーとして登録する制度。
- どんなことをするの？  
多文化共生アドバイザーは、多文化共生に取り組もうとする地方公共団体の求めに対して、取組事例に基づく助言やノウハウを提供する。

## 平塚市は多文化共生アドバイザー②

### ●登録内容

- ・ボランティア、入管職員、テレビ通訳システムによる多言語での相談体制を充実・強化する取組
- ・日本語ボランティア教室への支援と連携による日本語学習環境の向上させる取組

### ●登録状況

- ・県内では8自治体が登録
- ・全国では87自治体が登録（2023.4現在）

## やさしい日本語の普及①

- やさしい日本語とは  
日常使われている言葉を、外国人にも分かるように  
配慮した簡単な日本語のこと
- どうしてやさしい日本語が必要なのか
  - ・全ての外国籍市民に配慮した多言語による情報発信には翻訳作業に時間を要するため限界がある。
  - ・「やさしい日本語」を活用すれば、外国籍市民にも正しい情報を迅速に届けことが可能となる。

## やさしい日本語の普及②

### ●平塚市の状況

窓口対応で役立てることが出来るよう、庁内全課を対象に、「やさしい日本語」を学ぶ研修を継続的に実施。

### ●誰でも学べます



出入国在留管理庁・文化庁

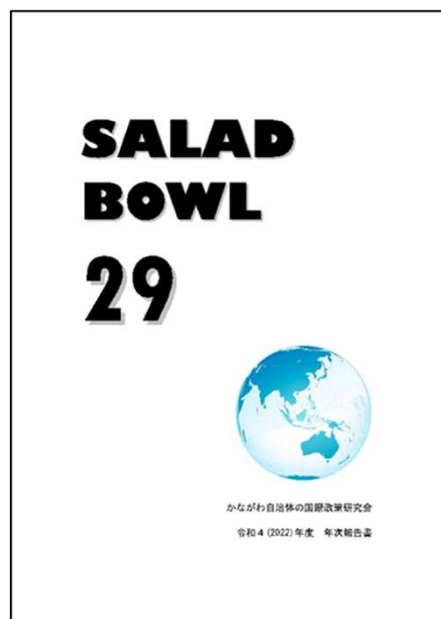
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/92484001.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/92484001.html)

# 自分のまちの取組を知るには

## ●「サラダボウル」

県と県内市町村が連携して、地域の国際化に関する施策の充実と推進のために調査研究・情報交換を行う

「かながわ自治体の国際政策研究会」  
が発行する年次報告書。



かながわ自治体の国際政策研究会

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/k2w/cnt/f3702/>

ご清聴ありがとうございました